「親の心得」

　先日新幹線を利用したのですが、降車時のアナウンスに気を引かれました。

「電車とホームの間が大きくあいております。危ないですので電車を降りる際は必ずお子様手をつないでください」というものでした。降りる際に見たら、確かに大人でも落ちてしまいそうなぐらいの隙間があり、お子様と手をつないで・・というアナウンスにも納得しました。

**■秩父神社に掲示されている「親の心得」**

このアナウンスを聞いて思い出したのが、秩父神社の境内に掲示されていた言葉です。

題は「親の心得」。実際には長方形の板に縦書きで書かれていますが、ここでは横書きで紹介します。

「親の心得」

赤子には肌を離すな

幼児には手を離すな

子供には眼を離すな

若者には心を離すな

短い言葉ですが、昨年これを拝読したときに本当にその通りだなと、とても感銘を受けました。

なぜかというと、私も我が子が小さい頃は迷子になって慌てて探したり、気づいたら公園の外に

出ていて危うく車にひかれそうになったりなど、今思い出しても冷や汗が出てくるような経験が多々あったからです。深く心に残っていたので、昨年度の卒園式でもご紹介いたしました。

**■「こどもの事故防止に関する関係府省庁連絡会議」について**

[**https://www.cfa.go.jp/councils/child-safety-actions-review-meetings/**](https://www.cfa.go.jp/councils/child-safety-actions-review-meetings/)

子育て中は私のようにヒヤリとした経験がある方も多いと思います。日本では窒息や溺水転落をはじめとする事故等によって、14歳以下のこどもが毎年200人ほど亡くなっているそうです。こどもの事故防止に向けて保護者への啓発活動や教育・保育施設等による取組、安全な製品の普及等の取組など、関係府省庁が緊密に連携して取組を推進するため、

「こどもの事故防止に関する関係府省庁連絡会議」を平成28年6月に設置し、令和5年4月からはこども家庭庁の下で開催されているそうです。

そのサイトに消費者庁の資料「子どもの不慮の事故の発生傾向」（※）が掲載されています。死亡事故の現状などが載っていて読んでいると辛くなる内容なのですが、0歳児では圧倒的に「窒息」が多いです。1歳以上からは「交通事故」が多くなりますが、「溺水」も多いことに驚きました。

そして10～14歳の死因の第1位は自殺とのことで、その数は年々増加しています。家庭だけが頑張るのではなく、社会の課題として考えていく必要があると思います。

　おろしりんごで窒息した事故を受けて、園ではりんごや梨は柔らかく煮て提供するようになり

ました。1歳以上は交通事故が多くなるという統計も出ております。園でも事故防止に努めてまいりますが、保護者の皆様には、園の玄関を出る際はお子様と一緒に出ていただきますよう引き続き

ご協力をお願いいたします。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（飯塚）

(※)<https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/27467e16-c442-413b-9cf2-07f6edb24e26/38926ebb/councilschild-safety-actions-review-meetings2023_03.pdf>